

# 三田中学校 校歌

川崎 洋 作詞  
林 光 作曲

一

学びの日々の過ぎゆく今を  
命いっぱいに生きよう  
学びの日々の過ぎゆく今を  
力いっぱいに生きよう  
光さす方へ面を向けて  
三田中学に集いしわれら  
集いしわれら

二

同じ時代に生まれあわせて  
嘆きと念いを頒とう  
同じ時代に生まれあわせて  
嘆きと念いを頒とう  
地球の明日に理想を結び  
三田中学に集いしわれら  
集いしわれら

### 三田中校歌の由来（創立十周年記念誌より抜粋）

昭和五十二年度に入り、市教委では新設校を中心とする校歌未制定校について、作詞・作曲料を予算化、本校分も計上された。（中略）三田中の歌としての出発であり、音楽担当職員からは校歌としての伴奏付きの確かにものが欲しいとのこと、よつて本格的な校歌作成へと動くに至った。五十二年七月頃から作詞・作曲家への依頼検討を始めていふ。幸いにして林光氏との交流をもつことができ、氏の紹介で、作詞を川崎洋氏にお願いすることができた。十月中旬のことである。

二月初旬のよく晴れた日の午後、林、川崎両氏を学校に迎える。学校としてどのような校歌を望むか。そのイメージづくりが代表職員を中心に討論される。意見を総合すると大体次のようにまとまる。従来の校歌には、自然環境、建造物等を歌詞の中に歌い込んでいるものが多いが、時代の流れにそぐわなくなるものがある。このようなことはできるだけ避けたい。現代の子供たちに、わかりやすく、覚えやすい言葉をつかいたい。従つて、あまり長くないもの、一番と二番ぐらいでよいのではなかろうか。曲は明るく、男の子でも歌いやすい音域に止めること、そして格調の高いものでありたい等、作詞・作曲家を前にして、無理難題ともいえる理想像が飛び交わされた。これらの議論を黙して聞いておられた両氏は、校舎や校庭を一巡、学区の特徴について説明を受け、帰途につかれた。

その後、三月中旬、素案がまとまつたこと、林氏から連絡を受ける。

こうして、五十三年度の春には発表会が鎌田校長の後を継いだ雨宮峯夫校長のもとで盛大に挙行されることになつた。両作曲家、当時の校長先生方ははじめ、多くの諸先生方のご努力によつて、この素晴らしい三田中校歌が誕生したわけである。